

白井市総合教育会議録

○会議日程

令和4年10月4日（火）

白井市役所東庁舎3階会議室302・303

1. 開会
2. 市長挨拶
3. 意見交換
 - (1) 「スクールサミット」での子どもたちのプレゼンについて
 - (2) 白井市の知的オアシスを目指して～白井市立図書館の取り組み～
4. その他

○出席委員等

教育長	井上 功
教育委員	川嶋 之絵
教育委員	齊藤 豊
教育委員	中里 敏康
教育委員	松田 加奈子

○欠席委員等

なし

○出席職員

市 長	笠井 喜久雄
企画政策課長	池内 一成
企画政策課	武藤 宏明
教育部長	本間 賢一
教育部参事	宗政 隆雄
教育総務課長	金井 早苗
生涯学習課長	寺田 豊
文化センター長	高花 宏行
書 記	中村 妃佐
書 記	鈴木 美菜
説明員	鎌田 ゆかり

午後3時30分 開 会

○事務局 それでは、定刻となりましたので、令和4年度第1回白井市総合教育会議を開会いたします。

開会に当たりまして、笠井市長より御挨拶をお願いいたします。

○笠井市長 皆さんこんにちは。

令和4年度の第1回の白井市総合教育会議に参加していただきましてありがとうございます。

また、教育委員の皆さんには、日頃から教育行政やまちづくりに対して御尽力をいただきまして、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

この9月議会で議会の皆さん全員が賛成をしてくれまして、井上教育長が10月より再任をされました。また井上教育長の下、教育行政を皆さん、いろいろな課題の整理をお願いしたいと思っています。

今日、皆さんとお話しすることを非常に楽しみにしまして、いろいろ資料の内容を整理してきました。

まず初めに、資料の確認をさせていただきます。この人口の推移と、今日の話の要旨があります。この二つを使って、皆さんとまちの現状と、私が考えている教育課題が何かということを共通認識させていただきたいと思っています。

まず白井市の人口推移というのがございます。この表を見ていただくと分かるのですが、白井市の人口のピークは、平成30年3月でございました。このときの人口が6万3,772人、これが白井市の人口のピークであります。それから徐々に減ってきてまして、令和4年の1月には6万2,795人になりました。そして令和に入ってくると、人口が徐々に持ち直してきております。令和4年の8月の人口が6万2,867人ですから、1月から8月にかけて約1,000人の方がこの白井市に住んでおられます。増えているのですね。

ただ、基本計画にある人口推移は令和2年度がピークということで、6万5,500人です。これを推定していました。しかし、先ほど言いましたように、令和4年の8月が6万2,800人ですから、約2,700人がこれよりも減っているという状況です。

ただ、明るい兆しは、先ほど言いましたとおり、人口がここで止まってきたということがここで推測されます。

次の表を見ていただきますと、大体、一月当たりの人口の増減が分かります。令和4年1月に69人の人口が増えていまして、そして令和4年の8月で40人増えてきています。なぜ増えたかというのは、そこまで細かく分析していません。一つ言えるのは、10月に北総線の運賃が安くなりましたので、このこともマンションの売れ行きに影響しているのかなと思っています。私は常に人口の増減を見ながら、次のまちづくりを考えています。

今日の話ですが、今日の話の裏を見てください。データから見る白井市の児童生徒数の推移。これを皆さんに共通認識を持っていただくために資料を作ったのですが、2022年の4月19日、千葉日報新聞によりますと、2020年を基準に、10年前と比較して千葉県内において増減の市町村が出ていますが、減少の1位が銚子市で、10年前に比べて36%減少しております。2位が山武、八街、勝浦ということで、この10年間で30%を超えている市町村が非常に多いということが、この新聞から読み解けることができます。

一方で、増加している市、流山が35%。これは、よく言われている流山のエキプレスの周りで若い人が増えているということが分かります。2位が印西市でした。これも今、印西市が増えていると分かります。3位が白井市だったのです。これは、このデータを見ると、まだまだ10年前、2020年の基準ですけれども、人が増えているという状況も分かります。

米印にあるのですが、全国で比べますと、日本の児童生徒数は、10年前と比較すると100万人

減少しています。千葉県においても3万4,224人、率で言いますと6.8%も減少しているというデータがありました。ですから白井市を見た場合、2020年時点では子どもの数が増えているというのが実態です。しかし、これからは子どもの数が減るという現象がありますので、これも含めて、これからの課題が分かるというふうに思います。

今日の話の中ですが、自分がもっている時間は15分間。15分間で端的に自分の思いを話をさせていただきたいと思います。この総合教育会議の市長の要旨ということで、まず基本的な考え方、これは令和2年12月に策定をさせていただきました白井市の第2次教育大綱、ここに自分の思いを、教育委員会との関係の掲載がございます。教育委員会の皆さんは理解をされておりますので、簡単に概要だけ説明をさせていただきたいと思います。

まず基本的な考え方ですが、私はもっと子育て、教育のまちにしていきたいと考えております。これから日本が進む道は、いかに子どもたちに投資をしながら子どもたちを育てていくか。これが私は日本、白井も同じような具体化を持っています。

それは、日本の国の借金、今幾らか知っていますか。6月末現在で1,255兆です。これは国民1人当たりになると、1人当たり1,000万円を超えています。生まれてすぐに子どもたちは1,000万円の借金を背負うことになってしまっています。ですから、今コロナでいろいろ言われていますが、これからの子どもたちに投資をしなければ、日本はこれからお金を返すこともできないし、いろいろな意味で日本が停滞が続くと考えています。私の中では、ここに書いてあるとおり、この子どもの子育て、教育というものを進めていきたいと思っています。

具体的な取組ですが、1から4まであります。これは第2次教育大綱に書いてありますので、これは省かせていただきます。端的に言いますと、生涯学習、社会教育も含めて、人生100年時代、いかに楽しく学びながら生きていくか、こういうことを支援しながら学校教育の自立を図っていききたいと思っています。その具体的な方針が1から4まで掲載されていますので、この大綱を基本にこれからも教育行政を進めていきたいと考えています。

そして、今までの主な取組をもう一度皆さんと再確認をさせていただきたいと思っています。

まず一つは、全児童生徒にタブレットを令和3年度に配布をさせていただきました。これは念願のタブレット配布になります。通常、予定ですと、5年、6年かかっていたものが、国のほうの補助金を活用して、一気に1年間でタブレットを整備することができました。タブレットを整備しただけではありません。また後で説明しますが、白井市としましては、まず全児童生徒にタブレットを配布させていただきました。

次に、普通教室へのエアコン設置も済ませさせていただきました。

三つ目には、大きくスクールバス導入など通学路の安全対策を拡充、充実させていただきました。これは御承知のとおり、昨年6月に八街市で事故が起きました。これを契機に、昨年度は通学路の安全点検の総点検を再度させていただきまして、その中で、今できることというので、看板や白線の整備をまずさせていただきました。その後、どうしても通学路の整備に時間がかかるという場所が、全校調べた結果、一小と二小には長年の課題である歩道もないし信号もつかないということが再度確認できましたので、ここで試行的に、一小と二小にスクールバル合計5台を導入させていただいていますが、そのほかの学校につきましては、七次台小学校にスクールセーフティスタッフというのを教育委員会で整備をさせていただいて、まずは昨年6月の事故を受けて、白井で子どもたちが安全で安

心して学校に通える環境を整備をさせていただきました。

その次に、生活困窮一人親世帯への子供学習支援ということで、今年始めた事業ですが、勉強したい、だけれども家の事情で行けないという、こういう子どもたちに対して学習支援というものをさせていただきます。

そして、次が高校生までの医療費の無償化。国の補助金を活用しまして、高校生までの医療費の助成を拡充しました。

さらに、同じく第三子を対象にした学校教育の無償化。これも補助金を活用して教育委員会でやっていただきました。

そのほか、インクルーシブ用具の整備ということで、これは富士公園に、障がいがあってもなくても同じように遊べるような遊具の整備をさせていただく予定でいます。やはり教育というのは、用具を公平にできる環境というものをできるだけ考えていきたい、と思っています。これにつきましても、今後、教育委員さんのいろいろな御意見を確認しながら、私の理想は、勉強したくてもできない子に対して、どうしたら手を差し伸べることができるか。ただ、勉強だけが人生ではありません。自分がいい例で、勉強はしなくても何とか大学まで行けるという例もありますので、そこは、その子に合った応援や支援をしていきたいというふうに思っていますので、よろしくお願ひしたいと思いません。これが今までやってきたことです。

今後考えられること。ウイズコロナの時代というものを迎えながら、そして地球温暖化という課題が出てきています。これを見据えて新しい課題というものが子どもたちを取り巻く環境の中に出てきていると考えています。ですから、今後こういう対応についても、やっていかなければならない、と思っています。

一つは、コロナなどの感染症対策ですね。今もやっているわけですが、恐らくコロナというのは、終息というのは、どの時点で終結するかは分からないと思います。恐らく感染者がゼロになることはなかなか難しいのではないかと思います。インフルエンザや風邪のような対応をこれから継続して求められていくのかな。そういう中で感染症対策についても、今回、2年間、3年間で学んだことを生かしていきたいと考えています。

二つ目が、やはりコロナの影響で経済格差、家庭格差、教育格差が出てきているのが今の実態だと捉えています。こういう格差をどのように教育現場でも埋めていくか、これがこれからの課題だと思っています。前までは、日本は中流家庭が7割ということで、非常に安定した経済を保っていたのですが、このコロナの前から、経済格差、家庭格差というのが問題になってきていまして、さらにこのコロナでクローズアップされていますので、この格差をどうやってこれから子どもたちに学ぶ機会を与えていくかが私は課題だと考えています。

三つ目には、ICTの活用。多分教育委員さん、後ろにいる議員さんたちも、各中学校を見たと思うのですが、非常にパソコンが本当に劇的に教育環境が変わりましたよね。非常に子どもたちが自分たちで調べて、先生もそれを使いながらやっている。これをもっともっと活用できないかと思っています。それは当然、教育現場にいる教育委員会さん、学校長にお願いするわけですが、タブレットをもっと活用して、例えばいろいろな国の子どもたちとつながるとか、こういうような活用も、これから考えていただければと思っています。

次に、特別教室などのエアコン整備ですね。これも皆さん、教育委員会さんでもいろいろあると思

うのですが、普通教室には何とか済みました。ただ、特別教室にエアコン整備がされていないのが事実です。

この日本教育新聞、今日の新聞記事で読みますと、文部科学省が9月28日の全国の公立学校のエアコン設置状況というのを発表しています。この中で普通教室、全国の公立学校ですね。これが95.7%、特別教室が61.4%、体育館は11.9%ですから、次は、特別教室をなるべく早めに整備をしなければいけないと考えております。これは、10月に入っても暑いですよ。昨日、パソコン、学校のICTの視察に行きましたけれども、暑い中でやっているという実態がありますので、これは早急にできれば進めていきたいと考えています。

次に、熱中症対策の強化ですね。これは屋外でやる、学校もそうですが、市民の方もそうです。例年、温暖化で非常に暑くなっていますので、この熱中症対策も力を入れていきたいと考えています。これは学校でいろいろなルールをつくると思うのですが、私は一般の市民の方にも、熱中症というものに注意をした環境をつくっていきたくと思っています。

次が、脱炭素社会の実現です。これは2050年までに脱炭素ゼロにする。白井市も宣言をしています。国も宣言しています。県もしています。白井市もしています。

2050年、あと30年を切っていますが、これの中心は、自分は今の児童生徒だと思っています。子どもの時代から脱炭素社会というものの行動ができるような、活動ができるような子どもたちを育成していければと思っています。

その一つがスクールサミットということで、教育委員会でやっていますが、自分ごととしていろいろなことを考えています。ああいう機会を教育委員会さんにつくっていただいて、子どもたちが次の世代、次の社会を考えるきっかけになっていただければと思っています。

次が、ヤングケアラーの対策です。ここにきて大分クローズアップされてきました。白井市でも1月25日に、専門の大学の先生を講師に迎えて、この研修を受けました、ヤングケアラーについて。自分も最後まで研修を受けまして、非常にこれがなかなか難しい問題だと思います。

具体的に言うと、ヤングケアラーの定義がはっきり決まっていないと。こういう中でどのような対策を取れるか、これからの課題です。それは県や市独自にある程度基準、方向性を決めながらやっついていかないといけない、ということです。でも、こういう問題があるということは、これから市としても考えていかないといけないと思っています。

次が、児童生徒が地域やまちづくりに参画できる機会の拡充です。子どもたちがこの白井市にずっと住んでいただく、そして家庭を持って、この白井市で暮らしていくためには、小さいときからこの白井市の良いところ、悪いところ、そして自分も白井市のいろいろな事業である、それに参加できる機会を拡充していきたいと思っています。スクールサミットも一つの例だと思います。自分たちで地域やまちの課題を考えて、ただ考えるだけではなくて、どうしたらいいかを考える、そして行動する。そのいい意見に対しては、大人、自分たちがそれを実現できるようにやっていくと。こういうような循環の中で、子どもたちのこのまちに対する帰属意識や愛着意識を高めていければと思っています。

最後に、梨などの農産物に関わる機会の拡充ということで、地産地消です。こういう地産地消についても、子どもたちにこの白井市の農業や作物のいろいろなことを学ぶ機会をできればと思っています。

私は、あくまでも市長、政治家という立場ですから、このような子どもたちの環境を、そして生涯学習ということで、大人に対してのいろいろな環境や支援を進めていきたいと思っています。現場でやるのは、当然、教育委員会や学校の先生です。まちの課題や地域の課題を教育委員会や学校と共有して、それぞれの立場で進めていければと思っています。

ですから、このような意見交換というのは非常にありがたいし、お互いが何を考えているのか、どういう思いでいるのかをある意味では点検できる場ということですので、いろいろな御意見を頂きたいと思っています。

ちなみに宣伝ですが、日本教育新聞というのがあります。この中に自分の考え方が掲載されていますので、見ていただきたいと思っています。こういうことを考えながら、白井の教育、そして生涯学習、これをますます高めていければと思っていますので、ぜひ井上教育長を中心に、教育委員の皆さんが日頃考えていること、日頃問題とと思っていることを御意見をして、少しでも前へ進めていければと思っています。

以上で、持ち時間の15分は終わりましたので、終わりにいたします。どうもありがとうございました。

○事務局 ありがとうございました。それでは、これより会議に入ります。

本日の会議は、笠井市長、井上教育長、教育委員4名の出席をいただいております。

この後の進行につきまして、前回の会議におきましても、主催である笠井市長から、会議を円滑に進行するため、進行役として井上教育長を指名させていただきました。本日の会議も同様に、井上教育長に進行をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

○井上教育長 よろしく願いします。

○笠井市長 お願いします。

○井上教育長 それでは、この総合教育会議でございますけれども、教育に関するテーマについて、市長と教育委員が意見交換をして共通認識を持つという、これが会議の趣旨になってございます。本日は、二つのテーマを用意させていただきました。

一つは、先日行われたスクールサミットで、内容は、子どもたちから提案があったものをこのようなプリントにまとめましたので、これを読んでいただいて、事前に読んでいただいているかと思うのですが、子どもたちの提案について意見交換していきたいと思っています。

それからもう一つ、発表者の小中学生のこの紙でございますけれども、発表した感想をこれにまとめましたので、子どもたちがこのスクールサミットを通してどんなことを感じたのか、どんなことを学んだのかという感想がございますので、この辺のところについても、御意見等を頂ければと思っています。

また、市長さんから御挨拶の中で、市長さんのお考えとか、白井市の教育に対する方針等もお話しいただきましたので、市長さんの先ほどの御説明にも絡めて、御質問や御意見を頂いてもよろしいかなと思っています。

もう一つは、白井市の図書館についての取組について。今日は館長さんに来ていただいておりますので、館長から、これまでの白井市の図書館の進め方、在り方、そして今後の考え方、もちろん今これについては、あり方検討会で検討はされているところなので、今後どういう検討結果が出るかはまだはっきり分かりませんが、今やっているところで目指しているところを説明していただき

いと思っております。

それでは、まず最初に、スクールサミットのことでございます。このスクールサミットの内容につきまして、御覧になっていただいた方も多いとは思いますが、10分程度で簡単にまとめたものを作りましたので、まずそれを御覧いただければと思います。

(00:36:10~00:47:55 動画視聴)

○ナレーター こんにちは。今日は～伝え合おう、わたしたちの思い～「SDGsなふるさと白井」をテーマに、8月23日、なし坊ホールで行われたスクールサミットの様子をお伝えします。これは市内小中学生のプレゼンやスピーチ能力の向上をはじめ、他校の考え方を聞き、有意義な情報交換をしていくことを目的に行われるものです。

コロナ対策のために3部制で行われ、第1部は中学校5校、第2部は小学校4校、第3部は小学校5校の発表が行われました。現在抱えている白井の現状や将来の白井を見据えた課題や提案、学校生活でのSDGsのつながりなど、小中学生ならではの提案がありました。それでは、御覧ください。

今の我々人間、地球環境というのは非常に大変な時期にさらされています。気候、温暖化や生活、貧困の問題、食糧不足、いろんな課題が待たないにやっています。皆さんが大きくなった頃は、ますます厳しい条件の中で暮らすことになっていきますので、今からやれることを一緒になってやっていきましょう。

○大山口中学校生徒 白井の新しい文化が生まれなければ、白井らしさや白井のこういったものは育ちません。つまり郷土愛が育たないということです。ですから、このような結果になってしまうのも致し方ないのではないのでしょうか。白井について調べ、白井を知った私たちだからこそ主張します。人口が増えそうな今だからこそ、白井の持っているものを大切に、白井らしさを守りませんか。

○南山中学校生徒 ここでの課題は、白井市の人口が2050年までに全体で約1割減少すると予測されることです。それによって生じる影響は三つあります。

一つ目は、少子高齢化をさらに加速してしまう点。二つ目は、年金制度と年金生活が崩壊してしまう点。最後の三つ目は、老人が働くことになる可能性がある点です。最終的には、白井市そのものが消えてなくなってしまうかもしれません。

○七次台中学校生徒 突然ですが、この写真を見てください。この左側の写真では、ウミガメが引っかかって動けなくなっています。そして、もう一つの写真が、海外で発見されたくじらの死体から出てきた大量のプラスチックごみの写真です。これは、3年前ニュースでも取り上げられました。このようなことを解決するために、海の環境を守る活動を行っている団体を支援することが必要だと考え、この募金活動でSDGsを支援するというプロジェクトを立ち上げました。

○桜台中学校生徒 電気自動車にも課題があることを感じました。

ただ、実際に白井市では、バスを増やすに当たり、今ある路線バスを増やすだけでは人が乗らないということが考えられます。そのため、国土交通省が推進するオンデマンドバスをつくることを提案します。オンデマンドバスは、決まった時刻に決まった経路を利用するバスと違って、タクシーのように、好きな時間に好きな場所に行くことができるシステムです。

○桜台中学校生徒 最後に紹介するのは、一つで食べることができる梨パフェです。まず、容器の4分の1ほどに梨ジャムを入れます。次に、梨カステラを入れます。その上に適量の生クリームを絞り

ます。最後に、白井の愛するキャラクター、なし坊のイラストが書かれているクッキーを乗せると可愛さがアップします。とても梨が食べたくなってきましたか。

○白井中学校生徒 今回のワークショップで、初めは白井市の未来を考えたことがなかった私たちでしたが、自分たちが未来の人になりきって考えることや、具体的な数字を見ることで白井市の未来について考え、意見を交換し、さらに市長さんに提案を発表することができました。私たち白井中学校の環境に対する意識が強まったことで、今後のSDGs活動への強力な理解がしてもらいやすくなったのではないかと思います。

○白井第一小学校児童 子どもへの暴力、子どもが初めて暴力を受ける場所で最も多いのが家庭です。このグラフを見てください。死亡した子どもの主な加害者は、父親や母親が多いです。子どもへの暴力は世界の60か国が法律で禁止されていますが、それは、5歳未満の子どもがいる国のわずか9%です。

○白井第一小学校児童 小学生の僕たちにも、SDGsについて何か取り組めることはないか、学級で話し合いました。

○白井第二小学校児童 話し合いは、まず自分たちにできること、取り組むことが実用的かどうかをピラミッドチャートで焦点化し、さらに自分たちで取り組めそうな項目を、マトリックスを使って決めました。

○白井第三小学校児童 ここで、梨農家の皆さんに二つのことを提案したいと思います。

一つ目の提案はこちらです。まず、スーパーマーケットや梨直売所に梨ガチャを設置するのはいかがでしょうか。梨ガチャの中には割引券が入っています。梨ガチャがあると、楽しみながら梨を買うことができるし、これを目当てに人が集まると思います。

次に、梨イベントを開催するのはいかがでしょうか。梨を買うとポイントがもらえ、そのポイントで梨無料券と交換できるイベントを毎月開催します。

○大山口小学校児童 このように男女の間に起こる問題はたくさんあります。そこで僕が大切にしたいのは、SDGsの5番目に当たるジェンダー平等を実現しようという目標です。これは男女格差なく平等に生きていくという目標です。特に、役職や地位によって男女が左右されるイメージをなくすことができればいいと思いました。

○清水口小学校児童 清水口小学校の残菜率は、令和3年度で16.1%でした。この現状を知り、私たち清水口小学校の6年生は、残菜率を10%以下に減らそうという目標を掲げ、1組が清水口小残菜率削減プロジェクト、2組が清水口小の食品ロスプロジェクトを立ち上げました。

○南山小学校児童 そこで、南山小学校から白井市に提案があります。それは、差別に関する偏見を持つ前に、子どもたちに平等に関する教育をすることです。ピアサポートのように、白井市独自の平等に関する教育を数時間でも実施することはできないでしょうか。先入観や偏見を持つ前の子どもたちに正しい知識と柔軟なものの見方をきちんと教育することができれば、性別の問題や宗教、人種問題などに対して、理解ある優しい白井市の子どもたちになっていくのではないのでしょうか。

○七次台小学校児童 今回、私たちは、白井市で働く家族にインタビューをし、友達と話し合うことを通して、働くということについて考えてきました。こうやって考えてみると、一人一人がやりがいを持って働くことが、人と人を温かくつなぎ、素敵なまちをつくっていくことに気づきました。

○池の上小学校児童 学校給食を残す理由です。池の上小学校6年生78人に調査した結果、一番多

いのは、嫌いなものがあるから残すと答えた人が31人でした。2番目に多いのは、時間が少ないということと、量が多いということで8人でした。

今、私たちのチームが食品ロスを減らすために取り組んでいることは、学校で1か月間、給食を完食している人に賞状をあげるということです。少しでも食べ残しが減ってほしいという願いで今取り組んでいます。

○桜台小学校児童 続いて、学校生活の視点です。学校生活の視点として、私はいじめ問題を取り上げました。皆さんは、いじめが起りやすい環境とはどんな環境だと思いますか。

私の考えるいじめが起りやすい環境というのは、1、子どもにとってストレスの多い環境。2、大人が子どもを見ていない環境。3、子どもがいじめをしてもよいと思う環境。4、違いや多様性を認めにくい環境。5、上下のラベリングがつくられやすい環境。こうした五つがあると考えています。

○井上教育長 皆さんの提案や提言は、市長さんもお話ししていましたが、これから白井市の中でできることを取り入れて、これが皆さんからの財産になっていくと思います。

また、皆さんが提案していただいたこの体験は、皆さんの成長の大きな財産になっていくと思います。

○ナレーター 小中学生のプレゼンはいかがでしたか。初めは緊張した様子も見られましたが、大人顔負けのスピーチ力で堂々と発表していましたね。

また、課題を分析し、それを解決する方法まで提案するという質の高さも目立ちました。

スクールサミットは、来年も継続して行われる予定です。小中学生ならではの新鮮で発想力、構想力豊かなプレゼンを期待しています。

○井上教育長 以上になります。

ちょっとPRなのですが、今の動画につきましては、生涯学習課で水崎先生という方を中心に、去年はラーバンにやっていただいて、今回は生涯学習課の素晴らしい技術だと思うのですが、先ほど説明していた女性は、生涯学習課の鈴木さんでございます。

概要を見ていただきましたけれども、先ほどお話ししたとおり、子供たちからいろいろな提案が出されていました。笠井市長も、子どもたちからのいろいろな提案を大事にしていきたいというお話もありました。

まず子どもたちからのこの提案、先ほど言いましたこのプリントですね。SDGsのマークがついたこのプリントです。これに書いてあるのですが、これを御覧になって、いかがでしょうか。こんなのは私と同意見であるとか、ここを特に進めてほしいとか。

話の取っかかりとして、今回のここの主催者でもあります企画政策課の池内課長さんがいらっしゃっているので、感想でも結構です、御覧になっていかがですか。

○池内企画政策課長 感想になりますが、当日私は、午前中の中学校の部を見学させていただきました、冒頭の大山口中学校の発表で、これまでSDGsと申しますと、持続可能など、将来に向かってというキーワードがピンとくる中で、大山口中学校は、白井の文化と時代背景から紐解くというか、これまででない、自分が気づかなかったSDGsの新しい視点を一つ教えてくれたかなというところが大変印象に残りました。

○井上教育長 ありがとうございます。企画政策課長さんから見て、これ、いいから取り入れられそ

うかなとかというのはありますか。課長なので、逆に言いづらいかもしれませんがですけども。

○池内企画政策課長 白井のまちづくりとSDGsの理念や目標は、共通するものがあると言われていた中で、大変参考になります。具体的にどうこうと、一つ一つは、この場ではというのはあるのですけれども、今後のまちづくりに参考とさせていただきたい意見も多々ありました。

また、大変厳しい意見もあったと思いました。白井市に住み続けたいが16%。そこは非常に厳しい意見と捉えています。

また、頂いた意見は、今後の新たな総合計画を策定する際に、一つ一つ参考にさせていただければと思います。

以上です。

○井上教育長 ありがとうございます。いかがですか。

市長さん、いかがですか。

○笠井市長 この2年間、このスクールサミットを見て思ったのは、子どもたちって、想像以上に現実を直視しながら将来を考えているなと思いました。大人以上に、自分の問題としていろいろな課題を整理しているなと思います。

ですから、子どものときから、地域のこととかまちのこととか、地球温暖化だとか、あとは多様性だとか、そういうことを学んでほしいなと。そして学んだことを、冒頭にも言いましたが、大人が少しでも何か実現してあげると、さらにもっとよくなっていくかなと思いますので、そういう循環的な仕組みをつくっていただければと思います。

○井上教育長 ありがとうございます。ほかにいかがですか。

松田委員、いかがですか。

○松田委員 SDGsって一見難しそうなの、一つずつ見ていくと難しいと思うのですけれども、それを子どもたちがうまく自分ごとにしていくという印象でした。

特に、給食の残菜が身近だったのかなと。結構取り上げている小学校、中学校が多かったのですが、問題点を把握するだけでなく、実際にそれについて取り組んでいる。その取組の成果も発表してくれたところがすごく印象的でした。

○井上教育長 ありがとうございます。

○笠井市長 残菜って本当に、日本は裕福なのですよ。よくいわれているのは、3分の1は捨てているということ。よその貧しい国というのは、食べるものに苦労しているのに、なぜ日本はこれだけものが捨てられてしまうのかというのが。今後やっぱりそのことも含めて、今、子供たちがやらなければいけないことを考えていただければと思います。

○川嶋委員 私がこのSDGsのスクールサミットに2年間を通して感じていることですけども、そもそも、子どもの意見を大人に主張する機会がなぜ必要かということ、子どもというのは、小さければ小さいほど、間違えることを恐れないのです。年齢が上がっていけばいくほど、間違えることはいけないとかいうふうに、まさに教育行政というものも間違ってはならない。だから、なるべく低年齢の子どもの意見を聞くというのは、すごく有意義なことなのじゃないかと思うのです。子どもは間違えることを前提に発想していませんし、また子どもは無限の可能性を秘めていますし、子どもの強みというのは、唯一豊かな発想力、想像力だというふうに思っているのです。こういう機会をいろいろな方々の協力を得て継続していくことは、とても白井市にとって有意義なことだなと感じています。

地方自治から変えられることもいっぱいあると思いますので、これをみんなで、市民と一緒にやっていくという機会として、とてもいいと思っています。

市長の描く未来を聞きたいというのが、まず一つあるのと、まず一つ、私が白井市に感じていることですが、さっきのフードロスの話です。いろいろなところで今、余っている食べ物はありますかということで、フードバンクというものを設置しているところがだんだん今増えてきているので、そういうものも、白井市役所、この市の中心のどこかにそういうことをやるところがあるのか、もしくは、あればいいなと思います。

○笠井市長 社会福祉協議会で、今そういう民間企業とフードロスの関係で協定を結びながら、ひとり親とか貧困家庭に物をあげています。ですから、企業さんとタイアップしながら、余っているものについては、困っている人たちにお配りするという、こういう事業を展開しています。

○川嶋委員 そうなのが広報とかに載っていたのですか。私は見落としていた。要はアナウンス力が弱いというか、発信をもう少し、多くの人が集中して、それを分かったよというような認識まで持っていていただきたいなという感じがあるのです。

○笠井市長 分かりました。社協のほうでも出しているし広報にもでているのだけれども、伝わり方が少ないということが課題だということは分かりました。

ですから、一番必要な人たちにどのように伝えていくのか。これがSNSなのか、紙ベースなのかを考えて、いろいろな事業をやっているのですけれども、なかなか届かないという声がございますので、そこは考えていきたいと思っています。

それと、自分が考えているもの、目指す姿ですよ。白井市は市民参加のまちづくりをしています。これは、自分も職員時代からずっと市民参加のことをやっていて、さっきの新聞の記事にもあるのですけれども、この市民参加というのは、大人に限って参加ではありません。子どもから高齢者、障がいがある方ない方も、あらゆる方がまちづくりに参画できる機会をつくっていききたいと思っています。

ただ、この市民参画を平成16年から本格的に条例をつくってやっているわけですが、18年過ぎていますがけれども、なかなか参加する人たちが、層が定着してしまっているのは事実です。声を上げる人たちは声を上げるけれども、声が上げられない人たちの声を吸い上げることができない。これが課題だと思っています。

よく言われているサイレントマジョリティーにならないよう、いろいろな人の意見をどのように行政や地域づくりに生かせるか、これをやっぱり考えていかなければいけない。当然、子どもたちの声もそうです。黙っている意見というの、やはり大事な意見だと思っています。そういう声を広く公平につなげていきたい、この仕組みをみんなで考えていきたいと思っています。

○井上教育長 ありがとうございます。

次の2番の子どもたちの発表や感想、ここも含めてで構わないのです。このスクールサミット全体を通してということで構わないので、意見交換をしたいと思っています。中里委員、いかがですか。

○中里委員 子どもたちの感想の中で、まず、学校全体レベルアップしてきたように思います。これというのは、発表した児童生徒だけではなくて、学校全生徒児童がSDGsに意識をしてくれれば、もっとよりよくなるものと思って。さらにいろいろな人に広まってほしい、また白井市で参考にしてくれたらうれしいとあるので。

昨年も今年も聞かせてもらったのですけれども、こうやって生徒たち全員が、白井市としてSDGsとして考えられるように、さらに白井市として、それに対して今どう考えているとか、途中経過的にはどうであるというのを市として児童生徒に可視化して分かるようにしていただければ、その子どもたちは、自分がやったことに対して、市はこうやって考えてくれている、協力をしてくれている。それはイコール、例えば大学とか社会人でちょっと白井市離れたけれども、ほかを見て、でも白井市がやっぱりよかったと行って戻ってきてくれるというものになっていってくれるのではないのかなと思います。

そのPR法も、広報費はすごいかかってしまうかもしれませんが、広報しろいとかホームページだけではなくて、新聞、チラシでも、電車の宙吊りでも、今の若い人ってネット社会ですけれども、白井市とか、ふるさとについてのことは絶対調べないと思うのです。それであれば、もっと目に見えて、自分たちがやってきたことって白井市は真摯に受け止めているのだなという表現をしてくれれば、大人になっても、白井市って活性化が進んでいくのではないのかなと思いました。

○井上教育長 アンサーということですね。子供たちの提言とかいうものに対するアンサーをちゃんと返したほうがいいということですね。

○笠井市長 1回目、2回目のときに教育委員会につくってもらって、そして全職員に見てもらう環境をつくりました。その中で、子どもたちが考えている課題だったり方向性だったりをまず職員に共通認識をもっていただくことにしました。

1回目のときにやったときに、ある課が、これいいからということで企画をしていたのです。けれども、コロナの影響でできなかったのです。今回も、先ほど池内課長が言ったように、来年できるものについては、各職員に紹介をして取り入れるものはやっていきたい。でも、中長期的にかかるものについては、総合計画なり、ちゃんと計画を立ててやっていきたいと思っています。

ただこれは聞くだけではなくて、みんなでいいと思えばやっていくし、子どもたちも、自分たちでいいと思えば自分たちで実践をする。場合によっては、子どもたちにいろいろな支援があると思います。ですから、まずはやれることをやっていって、大きなものについては計画に位置付けをして、そして成果を見せていきたいと思っています。

○井上教育長 この提案については、市役所には、職員には周知しているのですよね。

○本間教育部長 周知してあります。部課長さん皆さんに配っています。

○井上教育長 各課でこの情報は回っているので、多分、今いろいろ考えて、来年度予算に向けて考えていただいているところということですか。

○池内企画政策課長 部課長から指示がされていると思います。

○井上教育長 市長さんは何かの形にしたいと毎回おっしゃっていて、事業として形にするものと、今、中里委員がおっしゃった何かの形でアンサーする、それも一つのいいアイデアかなと思っています。

○笠井市長 一番いいのは、子どもたちと大人が協働でできるものを見つけていきたいと思うのです。ただ言って終わりではなくて、それにずっと関わられるような環境も大事だと思っています。そういうこともやっていきたいなと思います。

○齊藤委員 スクールサミットは2年目ですかね。中里委員の意見とも被りますが、子どもたち、だんだん大人たちに対しての挑戦状が事細かくいっぱい出てきているのかなと思います。

市長が最初に、冒頭、人口の関係とかお話があったと思いますが、確かに白井市、どんどん人口が減ってきて、この先は少子高齢化で、子どもたちの発表の中にも、白井市にはあまり住みたくない、何パーセントというのが出ていましたけれど、そういうようにさせないようにするための大人の考え方として、私、前もこの会議で何回か言ったことあると思うのですが、白井市って産業が結構あると思うのですね。そういう産業の発表の場というのがなかなかない。ほかの市町村によっては、アンテナショップみたいな形で市のものをどんどん外に発表する場がなかなかないのかなと。個々にはあるのですが、なかなか少なくなっているのかなと思います。そういったものも含めて、子どもたちから、今回2回目のスクールサミットで挑戦状を叩きつけられたという形で、アンサーではないのですが、しっかり受け答えをして、できるところからやっていかないと、子どもたちから、大人に対して裏切られたみたいな感じになるのかなと思います。

今はスクールサミットの発表という形になっていますが、先ほど市長からもあったかもしれないのですが、対談ではないのですが、子どもたちと対談方式みたいなのができれば、より多くの意見とかが出てきていいのかなと思います。これだと、まだ一方通行ではないのかなと思うのですね。いい意見発表でいいと思うのですが、今後そういったさらなる進化をしていって、スクールサミットをもっといいものにしていければいいのかなと思います。

○井上教育長 ありがとうございます。今、齊藤委員おっしゃったことについては、担当者のほうでももっといいものをもとを考えていて、例えば質問とかというような、対話が最後のほうに入れたりできるといいねというのは、今考えているところです。時間配分のことであって、いろいろありますけれども。ありがとうございます。

○笠井市長 さっき回した新聞の中に、高校生と対談をやったんだよね。健康づくりのプランをつくる時に白井高校の1年生に、健康について、運動、栄養とかそういうものも含めて対話をやったので、そうすると、いろいろな意見が出る。その中で政策として整備できるものもありますので、ぜひ、そういう機会を。

○井上教育長 多分この発表している児童生徒は、各学校の代表で、ある種選ばれて来ているので、この子たちはきっと、例えば市長さんとの対話とかでも、結構ちゃんと考えとかは発表できる子たちだとは思っているので、そういうときをつくれるといいかなと思います。

○笠井市長 社会科特別教育授業でやっているのと、あのときは結構いろいろな質問が出るのです。面白いですよ。結構いいことも言うし、やっぱり厳しいことも言う。こういうのをつくってほしいとか、そんなことを。

○井上教育長 市長さんは、社会科特別授業をやられているので、実際にもう子どもたちとは対話していますので。

○笠井市長 そんなついでで、面白い意見がいっぱいあります。

○井上教育長 ということは、教育委員が子どもと対話してみますかみたいな。

○笠井市長 そうですね。ぜひ、やってください。

○井上教育長 市長さんは、もうやっていますからね。

○笠井市長 その中で主権者教育もやっていますから。ちゃんとしないと駄目ですよということも言われていますので。

○井上教育長 ほか、いかがですか。よろしいですか。

では、次に進ませていただきたいと思います。この後は、先ほどのお話のとおり、図書館で今、白井の図書館が進めていることについて、鎌田館長のほうから説明をしていただきます。

○鎌田図書館長 図書館長の鎌田です。よろしくお願ひいたします。奉仕係の藤田とともに図書館の取り組みの紹介をさせていただきます。よろしくお願ひいたします。座らせていただきます。

タイトルにあります「白井市の知的オアシスをめざして」というのは、白井市のホームページのほうに「資料があつまり、情報があつまり、人があつまる白井市の知的オアシス」ということで紹介されているものから取りました。

図書館は平成6年に開館し、この10月7日で満28歳になります。遠くの方は見えないかもしれませんが、右下のかわいいイラストは2017年に千葉県公共図書館協会創立60周年を記念して、県内の各図書館の建物のイラストを作成していただいたものを使用させていただいております。

ここから何枚か写真を御覧いただきます。外観は比較的、前の写真のものが多く、現状と違う場合がありますが御了承ください。図書館棟は、プラネタリウムのドームがついているほうが図書館棟になります。スロープがついております。このスロープから建物の中に入りますが、この入り口から右側に見える写真の一番奥のところまで100メートルあるといわれておりますが、本当に100メートルあるかどうかは測ったことがないので分かりません。大体それぐらいの大きさです。

中庭から見た図書館棟です。こちらの中庭は、利用者の方から大変好評を得ている中庭で、四季折々の木がいろいろ見えます。ちょうど窓がある棟の2階のところ在学习室になります。

続きまして、今度は建物の中から見の中庭になります。今はこのくらいかどうか微妙なところなのですが、木蓮が見えて、この中庭のほうの奥のほうは文化会館の裏手にある総合公園の道とつながっております。こちらのユキヤナギのほうを通れる散歩道のほうともつながっておりますので、市民の方が定期的に朝晩散歩で使われております。このユキヤナギは、2016年のすごいいときだったときの写真です。

次に、館内案内図のほうを御覧いただきます。右側のほうの写真が入り口、左側のほうが一番奥のほうになります。先ほど見ていただいた中庭、雑誌コーナーとかヤングコーナーと書いてあるところの下段のほうが中庭になっております。こちらは一般の方がいろいろ御利用いただくスペースで、自由に資料を探したり読んだりすることができる場所になっております。

白井市立図書館の運営方針というのが、1から5番までありますが、こちらのほうに従って、私も職員のほうは取り組んでおります。

白井市立図書館の1年（令和3年度）を御覧ください。こちら個人貸出点数というのが左の上のほうにあります。人口1人当たりでは千葉県内で6位、蔵書冊数では千葉県内で3位ということになっておりますが、こちらは人口6万2,000で割り返しているということで、人口が少ないので比較的上位のほうに来ているということになっております。蔵書冊数は市外のセンター図書室と合算した数字です。

年間8割ぐらいが開館しているのですけれども、祝日開館はどうも定着しなくて、毎回毎回、「祝日開いていますか」という電話の問い合わせをいただきます。祝日の利用はそれほど多くないということになっております。

図書館以外にも、5か所の図書室があります。児童館図書室を市民の利便性を考慮して図書館と同様のサービスを行っております。西白井とか駅前センター、こちらのほうは、図書館法上の図書室で

はありません。皆さん、だんだん年齢が上がってきましたので、本を借りに来るのが近所じゃないと大変という方が増えて、予約の受け取りなどを主にセンター図書室のほうで活用いただいています。

週に2回、図書館とセンター図書室間を連絡車というものが運行しています。市内施設への連絡車の巡回は火曜日と金曜日、一方向になっています。図書館を出たら駅前に行き、富士センターに行つて、ぐるっと回って最後が桜台、図書館という形で、一方向にしか回っておりません。

そのほかに小学校とか、高齢者福祉施設のほうを回っておりますが、こちらは団体貸出し用の本を運んでいます。1回の巡回で、大体40から50箱のコンテナを運んでいます。

続きまして、学校図書館との連携についてです。読売新聞の日曜日の朝刊で学校図書の購入が100冊ぐらい減っているという記事もあったのですが、白井市は、20何年とか、皆さんのいろいろ御努力があつて、比較的、蔵書が増えている傾向にあります。

昔ほど学校からの御要望はないのですが、授業が同じ時期に重なると御提供できないものはあります。あと、同じ本を50冊とか、ちょっと無茶振りの御要求がある場合があります。学校の先生はお忙しいので、基本的にお任せコースが多く、図書館司書が頑張つていろいろ選書をして運んでおります。

続きまして、最近の設備です。セルフ貸出機、こちらは2020年、電算システム更新のときに入れました。図書館のみ1台で、土日は最近すごく利用が増えまして、図書館の貸出しの1割程度ぐらいある日があります。

こちらは、図書館除菌機です。コロナになったので御要望が多かつたため、導入を決めました。貸出しの済んだ方が、利用者自ら御自分で操作していただきます。こちらは、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金で、図書館で導入することができました。

次に、Wi-Fiです。こちら令和2年5月、電算システム更新のときに1アンテナだけ入れていたのですが、利用がすごくあつたということと、先ほど市長もおっしゃつていたように、コロナ以降は皆さんスマートフォンやタブレットをすごくお使いになる方が増えて、自宅でいろいろ作業する方も増えてという関係で、図書館内でもうちょっとWi-Fi使えないのという御要望もあり交付金により導入させていただきました。令和4年2月、館内全域と2階学習室にWi-Fi環境を整備しております。

白井市からのお知らせコーナーです。左側が詐欺被害の注意喚起、急に詐欺みたいな話になつてしまつたのですが、市内の担当部署から、「文化センターは比較的客人がいっぱい来るから御案内してくれないか」ということで、こういうこともしています。あと、安藤選手の銅メダルをおめでと展示行いました。コロナの時期にはなかつたリサイクルコーナーも今は設置しています。

続きまして、「本」に関する記念日です。あんまり浸透していないというか、有名ではないのですが、平成13年、2000年の年、子ども読書年というのがありまして、その後、子ども読書活動の推進に関する法律というのが出来上がりまして、子ども読書の日が4月23日になっております。こちらの子どもの読書週間は4月23日から5月12日。図書館は、毎年これに合わせて4月の記念展示というのをしております。今年は、「図書館で宇宙旅行」でした。

右側に国際子ども図書館というのが書いてありますが、こちらは上野にある国立国会図書館の支部でして、旧帝国図書館の建物を改修して児童専門の図書館になっております。皆さんも御利用いただけるのですが、コロナの時期なので、今は予約申込制です。こちらに職員が毎年1回行つていて、その年に出た新刊児童書の見計らい、現物を見て、内容がいいかどうかという確認をさせていただきます。

す。

10月から読書週間というのが始まりますので、そちらの御案内です。文化の日をはさんで2週間、終戦の2年後の1947年に始まりました。シンボルマークは、ふくろうです。今年は「この一冊に、ありがとう」というのが読書週間のテーマになっています。

図書館で展示していますこちらの御案内です。今日の千葉日報にもありましたように、書店がどんどんなくなっております。白井市も市内に書店はありません。本と触れられる機会は、やはり図書館が優先になってしまいますので、展示といたしまして、テーマを決めているいろいろな種類のものを出すということをしています。

ブラウジング、本を眺めるということがすごく大事で、インターネットだと、自分が気に入ったものだけどんどんレコメンド（おすすめ）してくれるのですが、こういう他人が選んだものを見ると、思いがけないものを見ることがあるので、そちらも重要と図書館では捉えています。

これは展示の例です。東日本大震災から10年ということで、これはかなり大きな展示となっています。右側に写っているのはブックトラックの拡大になります。

下にありますが、読売新聞の平成23年3月11日の原紙になっています。新聞の原紙は1年間しか保存しないのですが、この時期は特別ということで、四大紙は今のところ保存しております。

白いホワイトボードが逆側についているのですが、そちらの壁にもパンフレットなどを配置して、震災があったことを大きめに展示するようにいたしました。

続きまして、8月に毎年行っている「戦争を語りつぐ」という展示です。今年は「沖縄の戦い」。この時期は、必ず戦争に関するテーマに絞って展示を行っております。

続きまして、特別展示の御案内です。こちらは、入り口先ほどの展示よりちょっと内側に入ったところにあります。9月は、読書推進運動協議会の「敬老の日読書のすすめ」というリーフレットがありまして、そちらにある本を中心に展示を行いました。毎年人気で、すぐ貸し出しになってしまいます。

そのほかに、左側にありますが追悼展示。このときはエリザベス女王、イギリスの女王様の展示をいたしました。右側が、自殺対策強化月間。これもこちらで協力しているところでございます。

次に、児童コーナーです。児童は季節を大事にした展示を行っております、ここの写真にはないのですが、もうちょっと大きい窓ガラスのほうに、おうちで上げるような大きい鯉のぼり、そちらを窓全部使って展示を毎年しております。

6月は梅雨ということで、なし坊ファミリーを使った展示になります。隣が七夕なのですが、ちょっと見にくいのですけれども、一応、笹と短冊を御用意しております、お子さんが御自分で書いた願い事を短冊に書き笹につけるということを毎年しております。

今、食欲の秋ということで「おなかですいたよ」ということで展示をさせていただいておりますが、表紙見せの展示というのが絵本のところに、中段のところにありますが、下段は百科事典類ですので、展示と若干関わりのないものがありますが、郷土資料などもこちらに併せて置いてあります。

次に、ヤングアダルトコーナーといたしまして、もう少し年齢が上がったお子さんを対象にしたコーナーの展示になります。進学・就職コーナーが左側、各種学校案内と進学・職業についての本を集めております。市内にある日本唯一のJRA日本中央競馬会の競馬学校のパンフレットなども置いてあ

ります。

右側は、「科学道」という展示で、科学関係の本を集めて展示する形になっております。こちらは、民間のところややっていらっしゃるところで、申し込むと販促品のような形で毎回リストとともに送られております。なかなか好評です。

「文化センターだより」と利用者用検索機です。左側が「図書館だより」ですが、毎月発行している「文化センターだより」の中に「図書館だより」が入っています。これは10月号になります。行事の案内とともに展示を、こんなことをしていますという御案内をしています。

右側の検索機のところに、見えにくいのですが赤い丸がついてまして、そちらは展示した目録をテーマごとのリストとして後日利用していただけるようになりました。前はこういうのはなかったのですが、機械を入れ替えたときに、こういうリストも後から遡りで利用できるようになりました。

次は、レファレンスサービスのコーナーです。こちらは、大人の方が調べものをするときに、職員に問合せをする窓口の場所になっています。夏は学生の宿題も多いのですが、秋になると、大人の方の調べものが増えてきます。ちょっと季節がよくなると、皆さん意欲が湧くのか、いろいろお問い合せが増える時期になっています。

私どもだけで分からなかったものは、県内のほかの図書館につないで教えてもらったり、国立国会図書館のほうの資料を使って調べるということも可能なので、図書館同士でゆるやかにつながって、できるだけお答えしましょうという体制を取っております。

ここからは、今のシーズンの目にも鮮やかな紅葉です。この写真もちょっと古いので、現状と若干違うかもしれませんが、御覧ください。こちらは先ほどの中庭です。こちらと同じく中庭です。これはすごく色がよかったので撮ったのですが、黄色い紅葉になっております。

カリンの木です。こちらの中庭ですが、新聞コーナーにカリンの木が数本ありまして、実がつきます。この実をもいで、展示と一緒に置くという形をさせていただきましたら、香りがついていて、とてもいい感じになり好評でした。

先ほど、28年になったとお伝えしましたが、老朽化も進んでおります。書庫、電動集密書架のところの基盤の取換工事を6エリア中、1台だけ今してありまして、そちらの作業の様子を載せてみました。

最後に、図書館学の五法則を御案内させていただきます。第五法則が一番有名なのですが、「図書館は成長する有機体である」という言葉が一番有名です。

生物学においては、成長する生き物だけが存在し、成長を止めた生き物は、膠着化し死滅すると言います。図書館は社会の機関として、成長する生き物の持つ全ての属性を持ち、新しいものを取り入れ、古いものを捨て去り、大きさを変え、新しい形態を取るのです、という御案内があり、図書館の中では、常に中を新陳代謝して、時代に合わせていこうという考えが根付いている言葉でございます。

最後になりましたが、図書館の概要で、令和4年度の御案内です。こちらと同じく、今こういう形で、今年、半分まで過ぎましたが、職員励んでおります。御清聴ありがとうございました。こちらで終わらせていただきます。

○井上教育長 時間を考えて急いでやっていただきました。ありがとうございました。

それでは、図書館についての話題に行きたいと思うのですがけれども、初めにお話ししたとおり、今

現在、文化センターの在り方については、図書館を含めて検討しておりますので、その検討への意見ということではなく、図書館というものに関してのこれまでの実績に関する質問であったり、御意見であったり、期待することであったり、そういうことで意見交換をできればよろしいかと思っております。いかがでしょうか。

では、私からですけれども、説明を聞いていて思ったのですが、図書館というのは、大体みんな公立というか、公立の図書館というイメージがあって、民営でやっているようなところというのはあるのかなという、どこかあったりするのかなと。そうすると、どんな感じでやっているのかな、と疑問に思ったのですがお分かりになる範囲で結構なのですけれども。

○鎌田図書館長 公共団体がしている図書館では、直営で運営しているところが多いので、民間業者が入っているところのほうが今のところは少ないです。指定管理者みたいな形で入ると民間がしますが、あくまで責任は公共のほうにあるので、一応、公共図書館という名前になります。

私立図書館は、また私立図書館で別物にありまして、そこはそこで団体が違うので、逆に、公共図書館にはない自由な収集とかができるようになっています。

○井上教育長 「しりつ」というのは「私」ですか。

○鎌田図書館長 「私」です。

○井上教育長 そういふのは結構あるのですか。

○鎌田図書館長 あります。

○井上教育長 館長さんも御存じなのでどの辺にあったりするのですか。都内とかにあるのですか。

○鎌田図書館長 都内にあります。雑誌とかを集めている有名な大宅壮一さんの文庫とかは民間で、御自分の自宅を雑誌収集にあててということでした。数年前は、お金がなくてクラウドファンディングされて、かなり有名になりました。それとか、旧財閥の方が、自分の先祖の持っていらっしやったものをそのまま文庫とした東洋文庫さんとかです。

○井上教育長 ありがとうございます。すみません、自分の興味の質問をしました。いかがでしょうか。市長、どうぞ。

○笠井市長 館長、毎年これをもらっているのだよ。令和4年度の白井市図書館年報って。この21ページを見てみると、平成29年の入館者が27万人いて、令和3年度に16万人に落ちているのだよね。令和2年度が13万人。コロナの影響だと思うのだけれども、そのほかの影響ってあったのかなと思って。

○鎌田図書館長 新型コロナウイルス感染症対策で臨時休館しました。図書館として閉めるというのはものすごく珍しかったのですけれど、全国の公共図書館でかなり意見が分かれたのですが、閉まっているところは、やはり利用が減りました。東京なんかは完全に予約制でしたし、開いていないところが多くありました。ただ千葉県内は、比較的開いているところが多かったです。

某市では、市は言えないのですけれども、市の方針として早々に閉まってしまったので、市民の方から、かなり苦情があったというふうには伺っています。

○笠井市長 分かりました。

○井上教育長 いかがですか。川嶋委員、どうですか。

○川嶋委員 感想になるというか、私が白井に住んで、白井の図書館で感じていることなのだけれども、本当に子育てをしているときにはなくてはならない大切な施設で。乳児のときは、自分の住ま

いの近くの小さな図書館に通っていて、ちょっと大きくなって幼稚園ぐらいになってからは、こっこのメインのほうの図書館に通うようになって、すごく施設も充実しているし、また、装飾なども季節ごとにちゃんと工夫されている。やっぱり子供たちが喜ぶようなものを、季節の感じられるテーマのものをきちんと壁面の工夫とかをされていて、とても楽しい。

たまたまかもしれないですけども、利用するときって、そんなにも混まないのですよね。だから子どもとゆったり過ごす空間があって、すごくほどよい感じがするのです。もちろん入館者数は多いほうがいいという感じがあるのかもしれないけれど、利用する側とすると、ゆったり活用したいなというのもあるので、白井の図書館はそんなに人が集まらないのかもしれないけど、利用者としては、すごく満足度は高いのではないのかなと思います。子どもは子どもで楽しんでいますし、やはり一番多いのはお子さん、そして、お年寄りの方が非常に多くて。お年寄りの方が白井の図書館をサロンのように使っているのが、私はすごい好きで。たまに、ゆったり安らいでお眠りしている方もいるのですけれど、そんな白井の良さ。

あと、働いている方々が優しいです。顔が通じてくると、ちゃんとお声をかけてくれたりとか。私、図書ボランティアをやっていたのですが、そうすると、お勧めありますかなんて言うと、快く時間を取って丁寧に説明をしてくださったり、機械的じゃないのです、白井の図書館って。すごく温かい。だから、いつ行っても気持ちがいいというところがすごく好きといいますか、白井の図書館の良さだなと感じて利用させていただいています。

本当にこれを見ると、何も言うことはないです。要望もなく、本当に素晴らしいので、他市の近隣の方にもぜひ御活用いただきたいと思うぐらい素敵な図書館をつくってくださってありがとうございます。

○鎌田図書館長 ありがとうございます。児童コーナー担当の職員が熱心に活動しておりまして、季節もののテーマのほかに新しいテーマに毎回取り組んでおります。「白井の地名王」のクイズとか夏休みにはして、結構お子さんがその場で、神々廻が読めないとか、そういうようなクイズを比較的すごく熱心に毎回取り組みます。ほかの市立の図書館でやっていらっしゃって人気があるものだったら、即取り入れるというような工夫を職員がすごく工夫しております。

あと、児童担当の会計年度任用職員もすごく児童書が好きなので、対応は丁寧にやっています。ありがとうございます。

○井上教育長 いかがですか。齊藤委員、いかがですか。

○齊藤委員 今日の題名が知的オアシスということで、説明を聞かせていただいて、確かに知的な感じの説明だったなと思いました。

私も一応、図書館の会員というか、登録はさせていただきまして、年に二、三回ぐらいしか行かないのですけれども、調べものしたいときは、今こんな時代なので、パソコンでも何でも調べものはできるのですけれども、やっぱりあそこの独特の、書庫行って、本棚の前で自分の見たい、調べたいものを調べるという、ああいう雰囲気、静けさがすごく私は好きで、年に何回も行かないのですが行っています。そういった施設がこの白井市にある。

さっき館長の話で、白井市の中では本屋さんが1軒もないということで、ちょっとショックがありまして、ぜひ、そういった施設も、本屋さんも、そういったのも業者を呼んで、そういう施設があればすごくいいなと思います。本当に図書館って何か心落ち着くなって、先ほどの説明を聞いていて、

行ったときのことを思い出させていただきました。以上です。

○井上教育長 中里委員、いかがですか。

○中里委員 意見というか、難しいと思う提案なのですが、例えば今の若い人というのは、本当に本を読まなくて。自分も子ども3人いるのですけれども、小中のときに図書館行って本を借りたというのは、本当に1人がすごい借りていただけで、あとの2人は全然、めったに借りないというのがあって。それは強制ではないけど、図書館というものを知ってもらうには、子どもたちに例えば中学生の夏休みの読書感想文は図書館で借りた本にしてくださいとか。例えば今年は桜台中とか、やっぱり本に限りがあるので、そういう催しもいいのかなと思います。

それと、あれだけの本があって、私もちょっと図書館苦手なのですけれども、受験のときはすごい使ったのですが、どうしてもゆっくりする人と、カリカリしている人とかいろいろな方がいるので、これは図書館の構造上難しいと思うのですけれども、あれだけ素晴らしい中庭があるのであれば、直接そこに行けて、ある一角のエリア、ベンチとかがあって使用できるという環境づくりもいいのかなと思いました。以上です。

○井上教育長 ありがとうございます。

○鎌田図書館長 中庭に関しては、皆さん、犬の散歩とかで結構使われていたり、夏は岩の上で日向ぼっこしている方がいて、コロナの時期だったのですけれども、みんなで「ええって」言いながら中で見ていたのですが、単なる日向ぼっこだったり。結構皆さん、中庭にお入りいただいて大丈夫なので、自由にお使いいただけます。

ほかの委員さんからも、子どもが逆に、わあって声を発散できるような場所が欲しいとか、図書館の中だと怒られてしまって、子どもが利用できない御意見はいろいろ頂いておりますので、今後いろいろ勉強させていただきたいと思います。

○井上教育長 松田委員、いかがですか。

○松田委員 私も、川嶋委員がお話しされたように、子どもが小さいときはよく児童コーナーを利用して、子ども用のカートがあるのですよね。あれを押すのが好きでした。あれに絵本を乗せて、絵本をいっぱい借りた覚えがあります。

小学生ぐらいになると、子どもと一緒に図書館に行くということが少なくなって、ほとんど行っていないので、今日のお話を聞いて、また子どもと一緒に図書館を利用してみるのもいいなと思いました。

あと、ヤングコーナー、そういうのがあるのも知らなかったので、ぜひ利用してみたいなと感じました。

目的がなくてもというか、先ほど言っていたブラウジングが大事というところが印象的で、何となくそういう、これを借りるって決めていなくても、ぱっと見て、出会いがあるのが図書館なのかなと感じたので、また図書館を利用したいなというのと、ほかの市の図書館というのはあまり見たことがないので、私は白井の図書館と、ほかを比べたことがないのですが、ほかの市、例えば印西の方とかいうと、白井はいいね、立派な図書館があってというのを聞いて、すごい白井は恵まれているのだなと感じます。なので、本当にこれからも、もっとたくさんの方に利用してもらえればなと思いました。以上です。

○鎌田図書館長 ありがとうございます。

○井上教育長 ありがとうございます。今日は、主に図書館については、図書館のPRというか、それをメインで説明させていただいたのですが、最後に私から、市長さんもいらっしゃるの、何か今、欲しいものというか、もちろんお金があればたくさん買えて、何でもできるのだと思うのですけれども、お金じゃなくて、何かこうしたいとか、これがあるといいみたいなものはあるのでしょうか。

○鎌田図書館長 正直に言うといろいろありますが、財務の方も苦しい中から、いろいろ図書館にはすごく目配りをいただいて、多めに費用を頂いて、バランスを取るような形で頑張らせていただいている最中です。

○井上教育長 お金で片づかない話で。

○鎌田図書館長 正直に言ってしまうと、世代交代をしなればいけないかなと。市役所は若い方多いのですが、ちょっと若い方が少ないので、できれば若い方を入れていただくと、先ほどの中里委員から御案内があったように、中高生に近い年代の方がいろいろな企画をすると、また年齢が上がっている者の企画よりは近いのかなとか思ったりもしています。

○井上教育長 かなり内部事情ですけれども。それは、きっと届くのではないかな。

○鎌田図書館長 届きますか。よろしくをお願いします。

○井上教育長 時間も来ましたので、ここで市長さんにお返ししたいと思います、市長さん、先ほどのスクールサミットも含めてでも結構なので図書館も含めて何かありましたらお願いいたします。

○笠井市長 本当に貴重な時間をありがとうございました。恐らく1時ぐらいからずっとやっているでしょう。疲れがというところで。

ただ、自分のほうも話をしましたが、冒頭に、まちの状況とか教育の状況を委員さんたちと問題意識を共有することは大事なことだと思っていますので、今後とも、皆さんが考えていることを忌憚らない御意見を頂きたいと思っています。繰り返しになりますが、まちづくりをする中で、いろいろな人の声を吸い上げていきたいと思っています。それは、子どものときからそうですし、そういう声を吸い上げて、そして、このまちをもう少しでもよくしていきたいと思っていますので、ぜひ委員さんも、子どもたちはこんなことを考えているよといった、そういうのもあれば聞かせていただきたいと思います。そして、みんなでこのまちをさらに盛り上げていければなと思います。

このまちには、議員さんもいますけれども、まだ可能性がたくさんあります。いろいろな面で可能性があるので、そこをみんなで知恵を出し合って力を出せば、まだまだしますので、ぜひ教育という視点、生涯学習という視点で御意見等を頂きたいと思います。

今日は、どうもありがとうございました。

○井上教育長 どうもありがとうございました。では、事務局さん、お願いします。

○事務局 ありがとうございます。

1点、事務連絡です。今年度、第2回を予定しておりますが、恐らく来年、年明け2月、3月頃になるかと考えております。テーマにつきましては、ただいま検討中ですので、今しばらくお待ちいただければと思います。

それでは、以上をもちまして令和4年度第1回総合教育会議を終了させていただきます。皆様、本日はお疲れさまでした。

午後5時04分閉会